

日本臨床検査自動化学会医療情報委員会  
平成 30 年度第 2 回委員会 議事録

1. 日時：平成 30 年 10 月 12 日（金） 13 時 25 分 ～ 14 時 30 分
2. 場所：神戸国際会議場 4F 403 号室（第 V 会場）  
（神戸市中央区港島中町 6-9-1）
3. 出席者（敬称略）： 和田、片岡、本田、萩原、真鍋、下坂、清水、山田、油野、  
瀬戸山、湯地、田中、長原  
欠席者（敬称略）： 中島、前田、畑中  
陪席者： 康理事長
4. 配布資料  
資料 1： 前回議事録  
資料 2： 第 67 回 POC セミナー案内文  
資料 3： 第 50 回大会シンポジウム I プログラム  
資料 4： 日本臨床検査自動化学会会誌補冊章立て試案  
資料 5： IHE 臨床検査部門 活動報告
5. 議事：
  - 1) 前回議事録の確認  
和田委員長より、資料 1 に基づき前回会議の内容に関して説明があった。その後、委員への発言を求めたが意見はなかった。
  - 2) 報告事項
    - (1) 第 67 回 POC セミナーの報告  
山田委員より資料 2 に基づき、10 月 11 日に開催された POC セミナーの報告（参加者 119 名）が行われた。反省点として、本セミナーに対する医療情報技師更新ポイントの申請が遅れたことが挙げられ、今後は手続きや広報活動等を早めを実施する必要があると報告された。
    - (2) 第 50 回大会シンポジウム I の報告  
萩原委員より資料 3 に基づき盛況に開催されたことが報告された。
    - (3) 各ワーキンググループの活動状況報告
      - ①診断支援システムワーキング  
瀬戸山委員よりグループ内での活動はまだ具体的な活動はまだ行われていないが、自施設での大規模データ解析のノウハウをグループ内で共有し、多施設間でのバリデーション等今後の進め方について検討したいと報告された。

## ②臨床検査システム標準化ワーキング

長原副委員長より本ワーキンググループとして1. コードの標準化、2. 運用フローの標準化、3. システム構成の標準化の3つに関して情報収集ならびに取りまとめを行っていくと報告された。

## ③臨床検査業務支援システム構築ワーキング

片岡副委員長よりグループでの具体的な活動はまだ行っていないという報告された

## (4) その他

- ・日本 IHE 協会 臨床検査委員会活動状況報告

山田委員より資料5に基づき HE 臨床検査部門の活動報告が行われた。

・和田委員長より JAHIS（保険医療福祉情報システム工業会）からガイドライン等の広報活動の要請がきており、長原副委員長、山田委員に対応頂いていると報告された。

## 3) 審議事項

### (1) 日本臨床検査自動化学会会誌補冊の発行について

和田委員長より資料4に基づき、「日本臨床検査自動化学会会誌補冊」の説明と今後のタイムスケジュールの提案がなされ、満場一致で承認された。なおタイムスケジュールは以下の通りである。

2018年10月末まで：ワーキンググループ長を中心に章立ての確立

2018年11月：ワーキンググループ長を中心に執筆者の選定

2019年3月：原稿締め切り

2019年4月：春季セミナーにて進捗状況確認

2019年10月：発行予定

また、以下点が議論、確認された。

- ・外部の執筆者に対しては、薄謝を出す予定である。
- ・2) ②運用フローの標準化については、3) 臨床検査業務支援システムにも記載が必要であるため、2) では IHE に特化したものが良いのではないかという意見が出され、IHE の運用フローとすることとなった。
- ・2) ①生理検査におけるコードの標準化に関しては、再検討することとなった。
- ・臨床検査システムにおける標準化が2) と別章になっているが、3) 臨床検査業務支援システムの中で標準化に関する話を盛り込んでも良いのではないかという意見が出された。この点に関しては、章立てとともに再検討することとなった。
- ・法律改正と医療情報、ISO と医療情報に関して盛り込むこととなった。
- ・4) 臨床検査診断支援システムにおいて、市販されているシステム (A&T、アボット、

KD ICONS 等)に関する記述があっても良いのではないかという意見出された。ただし、執筆がメーカーとなる場合は、単なる宣伝とならないよう注意が必要であることが確認された。

- ・専門用語には解説を入れるなどし、なるべく汎用性の高い言葉を使い理解しやすいものとする事が確認された。

本審議において以下の項目について執筆者が暫定的に決定した。

## 2) 臨床検査システムにおける標準化

### ①コードの標準化

- ・検体検査及び生理検査におけるコードの標準化：真鍋委員
- ・遺伝子検査におけるコードの標準化：中山先生（日大）

## 3) 臨床検査業務支援システム

### ①病院情報システムの中で検査に係るシステム：片岡副委員長

## 4) 臨床検査診断支援システム

- ・ROC データベース：片岡副委員長

## 4) その他

(1)和田委員長より10月11日に開催された理事会およびプログラム委員会において、次回第51回大会において、単独開催セミナー、合同開催セミナー、シンポジウムのいずれかで開催を要望した事が報告された。

(2) 康理事長より臨床検査に特化した人材（データサイエンティスト）の育成やリテラシーを持っている人の認定制度の立ち上げを将来的に本委員会主導で出来た良いのではないかという意向が示された。

これに関連し、次回の委員会において医療情報技師と放射線画像情報技師の仕組みについて、長原副委員長より報告することになった。

## (3) 次回開催予定について

日本臨床検査自動化学会第33回春季セミナー開催時

日時：2019年4月26日（金）午後

場所：ホテル ライフオー ト 札幌（予定）

以上